



記者発表資料  
令和6年8月27日  
農政部 園芸推進課 園芸振興班  
担当：小池、成澤  
電話：022-211-2843  
[engei-shinko@pref.miyagi.lg.jp](mailto:engei-shinko@pref.miyagi.lg.jp)

## 「令和6年度 宮城県園芸振興大会」を開催します！ ～みやぎの園芸倍増に向けて～

宮城県では、令和3年3月に第3期みやぎ食と農の県民条例基本計画を策定し、「**園芸産出額倍増**」を目標に掲げ、園芸振興に力を入れて取り組んでいます。

このたび、園芸生産者や市場関係者、実需者、関係団体等が一堂に会し、園芸産出額倍増に向けた意識統一と意欲喚起を図るため、「**宮城県園芸振興大会**」を開催します。

大会では、園芸振興への貢献度の高い組織・団体を称える「みやぎ園芸振興大賞」や「全国農業協同組合連合会宮城県本部長賞」の表彰を行います。

本大会を通じ、県内外の実需者や消費者へ宮城県の園芸を広くPRするとともに、表彰する優良事例の横展開を図ってまいりたいので、是非取材して下さるようお願いします。

### 令和6年度宮城県園芸振興大会

- 1 日 時 令和6年8月30日（金曜日） 午後1時30分から午後4時まで
- 2 場 所 JAビル宮城11階大会議室（仙台市青葉区上杉1丁目2-16）
- 3 内 容 **【第1部】表彰式（13:30～）**

- ・みやぎ園芸振興大賞表彰
- ・全国農業協同組合連合会宮城県本部長賞表彰  
※受賞者の概要は裏面参照。

#### **【第2部】園芸産出額倍増に向けて（14:30～）**

- ・基調講演

講 師：全国農業協同組合連合会 チーフオフィサー 戸井 和久氏  
テーマ：消費動向の変化に対応した持続可能な園芸産地づくり  
～適正な価格形成に向けて～

- ・がんばろう三唱

- 4 主 催 宮城県、全国農業協同組合連合会宮城県本部
- 5 参集範囲 県内外の生産者、市場・流通関係者、実需者、関係機関等（150名程度）
- 6 取材申込 御取材いただける場合は、上記担当へ御連絡ください。



表彰式のイメージ（昨年度の様子）

# 第6回みやぎ園芸振興大賞表彰

## みやぎ園芸振興大賞表彰（宮城県知事賞）について

平成30年度から始まった、宮城県独自の表彰制度。園芸品目の生産、流通、加工及び販売などに関わる団体等を対象とし、本県園芸産出額の向上に寄与する取組を行う団体等を称えるもの。



## 大賞

### 株式会社みちさき

（仙台市、トマト・葉物野菜）



東日本大震災後、平成24年に法人を設立。環境制御システムを導入した大型ハウスでトマトや葉物野菜の高い単収を安定して実現し、大手外食チェーンや野菜カット工場へ通年出荷している。

平成30年にはGLOBALG.A.P.の認証を取得し、食品安全、労働環境、環境保全に配慮した「持続的な生産活動」を実践している。



### 株式会社サンフレッシュ小泉農園

（気仙沼市、トマト）



東日本大震災後、平成26年に法人を設立。大型の養液栽培施設で生産したトマトは、小泉海岸がサーフィンで有名であり、地域の復興と事業運営が波に乗ることを願って「波乗りトマト とまたん」と命名。

GLOBALG.A.P.認証の取得や太陽光発電システム導入による環境負荷低減の取組も行っている。



### 農事組合法人おおしお北部

（東松島市、ばれいしょ）



前身の生産組織を法人化する形で平成27年に設立。平成29年に3haからスタートした加工用ばれいしょ栽培は、令和5年には県内トップの約30haまで拡大し、露地園芸のモデル事例となっている。加工用ばれいしょの取組のけん引役となり、地域全体の取組面積も拡大している。



## 特別賞

### はるはなファーム株式会社

（丸森町、花壇用苗もの類）



平成25年に法人設立後、ホームセンター等の委託生産に加え、コンサルティングによる提案型営業等により園芸専門店やネット通販業者、造園業者等へ販売チャンネルを広げ、出荷先を開拓し、取引件数と出荷量を伸ばしている。プロ向けの卓越した知識と技術力により、各種コンテストでも高く評価されている。





# 全国農業協同組合連合会宮城県本部長賞表彰

## 全国農業協同組合連合会宮城県本部長賞表彰について

平成30年度、宮城県園芸振興大会 全農宮城県本部表彰要領に基づき、みやぎの園芸産出額向上に寄与する取組を行った生産部会、生産法人及び団体等を称えるもの。



## 大賞

### 仙台せり振興協議会 (JA仙台)



令和元年8月に、名取市の2団体、仙台市の1団体、個別出荷農家85名で設立。同年10月に地理的表示(GI)を申請し、令和6年3月に登録。栽培面積は、約20haで日本一の生産量を誇る。協議会として、品質保証やブランド価値を守り、全国の消費者に「仙台せり」を届けられるよう各種取組を行っている。



## 流通販売部門賞

### 古川農協園芸振興会 (JA古川)



「古川なす」をはじめ、会員157名が生産する野菜は、世界農業遺産「大崎耕土」のブランド認証を受けている。認証条件の有機質肥料を使った土づくりを行い、おいしい野菜の知名度向上と販路拡大に取り組む。



## 生産部門賞

### JA加美よつば



取引先から加工用トマト原料の国産切替の提案を受け、平成21年度より15年間栽培を継続している。通いコンテナ使用による物流費の低コスト化や降雨時における作業効率の改善も進めている。



## 栽培技術部門賞

### 株式会社たいら (JAみやぎ登米)



平成20年から冬春いちご(もういっこ)を栽培し、JAみやぎ登米いちご部会での技術指導や情報発信に積極的に取り組む。令和5年から開始したねぎ栽培は、夏の猛暑や豪雨の影響があった中、1年目ながらねぎ部会内で数量、金額共にトップとなり、部会の中心を担っている。



## 特別賞

### JAみやぎ仙南花卉部会 (JAみやぎ仙南)



きく類をはじめとする花卉の統一部会として、柴田町や丸森町等の生産者を中心に、生産者間の情報共有や、栽培技術の向上を目的とした研修会や目揃い会等を開催し、品質維持・向上を図っている。



### いしのまき農協スリムねぎ部会 (JAいしのまき)



昭和60年に桃生地区の小葱生産者22名で設立。安定生産とブランド確立に向け、巡回指導会や各種研修会、他産地との情報交換会など積極的に事業を展開。近年は、イベント等で食育活動にも取り組んでいる。

